能代北高跡地利活用可能性検討業務

報　告　書

【概要版】

令和５年３月

秋田公立美術大学

1 北高跡地の利活用に向けた実践型ワークショップの立案

・昨年度は、第 3 回目のワークショップ（WS）が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。そこで、それまでの 2 回の WS の成果を基に、今年度以降の実施を想定した実践型 WS 案がとりまとめられた。

・今年度は、昨年度の成果に対する意見交換を行う WS を実施した後、実践型 WS を行うことにした（表 1）。実践型 WS として行う内容は、費用と実施時期の観点から検討を行い、「宿泊」と「展望」をテーマとすることにした。

表 1 今年度実施した実践型ワークショップの日程・テーマ

開催日時	備考
2022 年 8 月 27 日（土） 13:00～16:00	WS_03　昨年度のワークショップ参加者への説明会を兼ねて実施
2022 年 9 月 24 日（土）14:00 ～9 月 25 日（日）11:00	実証実験プロジェクト_01：実践型 WS_01 「北高跡地に宿泊してみる」
2022 年 11 月 20 日（日） 11:00～15:00	実証実験プロジェクト_02：実践型 WS_02 「北高跡地で展望してみる」

2 北高跡地の利活用に向けた実践型ワークショップの実施

1）実践型 WS_01「北高跡地に宿泊してみる」

・実践型 WS_01「北高跡地に宿泊してみる」は、北高跡地に長時間滞在することの可能性について検証することを目的に実施した。

・プログラムには、昨年度の 2 回の WS と今年度の WS_03 で出された全てのアイデアから、実践可能なものを抽出し、組み入れた（表 2）。

表 2　実践型 WS_01「北高跡地に宿泊してみる」概要

プログラム	9 月 24 日	14:00 スタート 15:00-16:00　能代の歴史（まちあるき）「展示」 講師：花下哲（元地域おこし協力隊） 佐藤修正（能代まち歩き案内人） 16:30-17:00　箸作り体験「つくる」 講師：湊哲一（ミナトファニチャー） 16:00-17:00　来場者インタビューなど 17:00-18:00　火起こし「宿泊」 講師：船橋陽馬（またぎ・写真家） 20:00-21:00　星空観賞「宿泊」＊アプリケーション使用
	9 月 25 日	9:00-11:00　参加者との振り返り 13:00　撤収完了
参加者数	17 人（内、宿泊者 6 組 9 名）	

図１　実践型 WS_01「北高跡地に宿泊してみる」の様子

【考察】

・「宿泊」をテーマにすることで滞在時間が長くなり、「展示」に関連するまちあるきや「つくる」に関連する箸作り体験といった複合的なプログラムを実施することができた。

・WS 全体を通して、特定イベントのみに参加するといった多様な参加方法が許容されたことで、普段交流のない人との会話が生まれる場になったことがインタビューからも把握できた。

・北高跡地の利活用に関する意見を様々な機会で把握するように努めた結果、まちあるきなどのイベントと連動した意見交換が生まれた。また、北高跡地を実際に利用することで、施設整備に関する具体的な意見も多く出された。

・以上より、様々なイベントと組み合わせた WS の実施は、北高跡地の利活用に関する多角的な検討に有用な手法といえる。

２）実践型 WS_02「北高跡地で展望してみる」

・実践型 WS_02「北高跡地で展望してみる」は、北高跡地が周辺と比べて高い地形にある土地であることから、眺望機能に関するアイデアを実証することを目的に実施した。

・高所作業車を用いて、地上６階程度（15m）からの展望を体験し、展望施設の必要性などに関するアンケート及びヒアリング調査を行なった。

表３　実践型 WS_02「北高跡地で展望してみる」概要

プログラム	10:00 クレーン車スタンバイ～テスト 11:00～12:00 第１部 12:45～15:00 第２部
参加者数	23 人

図 2　実践型 WS_02「北高跡地で展望してみる」の様子

【考察】

・多くの参加者は、通常では体験できない眺望を楽しんでいた様子であったが、アンケートからは展望台の必要性を求める積極的な意見は認められなかった。特に、展望施設が有償の場合、半数以上は利用しないとの回答であった。

・まちを一望する体験そのものに否定的な意見は聞かれなかったものの、展望の機能に特化した施設の必要性は低いことが推察され、今後、建物を建設する時には、最上階に展望スペースを設けるといった対応で十分な利用者の満足度を得られることが推察される。

・参加者から、「北高跡地で展望してみる」のようなイベントを複数回実施し、北高跡地の存在や実践型 WS を PR することに好意的な意見があった。

3　ワークショップにおける検討成果の公表

・全 3 回のワークショップの実施内容については、アーツセンターあきたのウェブサイトやニューズレター（計 2 号発行）により、広く公表した。

・ワークショップに参加していない人でも、その検討成果を共有できるよう、能代市役所の市民交流スペースにおいて、ニューズレターを中心としたバナー展示を行うなど、多様な手法を用いた検討成果の公表を試みた。

・また、実践型 WS の開催にあたっては、これまでの参加者以外にも訴求するため、アーツセンターあきたのウェブサイト、Facebook イベントページ、イベント支援サービスの「こくちーず」を活用した広報を行い、イベント案内を通じた広範な発信を行った。

能代北高跡地のワークショップニュースレター（表紙）

能代市役所の市民交流スペースにおけるバナー展示

図３　多様な手法を用いた検討成果の公表

4 今後の展望

・実践型 WS_01「北高跡地に宿泊してみる」の成果から、まちなかで宿泊すること自体が、まちの楽しみ方の一つとして提供できることが示唆された。また、夜まで利用可能な場の存在が、多様なプログラムや利用者を許容することも確認された。

・実践型 WS_02「北高跡地で展望してみる」により、展望機能に特化した施設整備の必要性が高くないことが明らかになった。一方で、展望する行為については否定的な意見はなく、WS 中の参加者の様子からまちを展望することの有用性も把握できたため、建物を計画する際は、その形状を工夫し、適切な展望スペースを設けることが望ましいといえる。

・北高跡地における実証型 WS は、実際に敷地を使いながらその利活用のあり方を検討するものである。昨年度、「宿泊する」「スタートアップ」「展示する」「つくる」「展望する」の 5 つの方向性を打ち出しており、今年度は、「宿泊する」と「展望する」を中心とした実証型 WS を実施した。よって、今年度のとりまとめについては、次年度以降に実施予定の他の実証型 WS の成果に基づき、随時更新していく必要がある。